

# 稲作情報 (Vol.2)

令和元年6月18日  
宮城県石巻農業改良普及センター  
石巻地方米づくり推進本部  
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999  
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/

## 気象経過

◎ 6月上旬は、平均気温が平年より1.9℃高く、日照時間が平年比123%と、高温多照傾向となりました。降水量は平年比93%とやや少なくなりました。

## 水稻の生育状況

◎ 6月上旬の高温多照により生育が進み、ひとめぼれの6月10日現在の草丈は29.3cm（平年比100%）、1㎡当り茎数は417本（平年比151%）、葉色はSPAD値で44.7（平年差+3.4）となっており、葉数から見ると平年に比べて4~5日程度進んでいます。

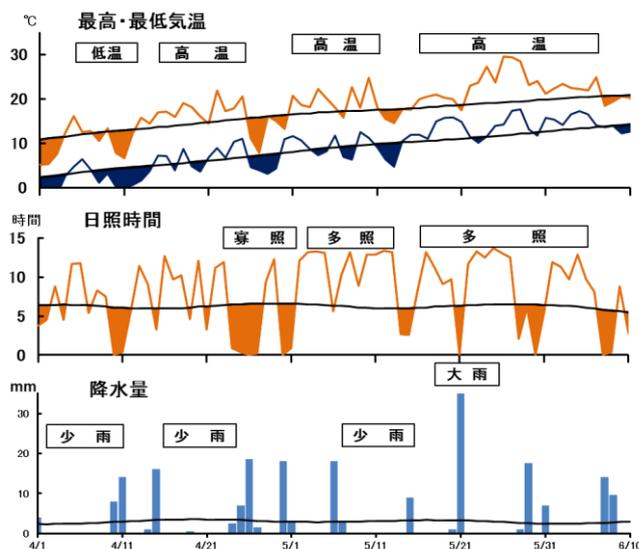


図1 田植後の気象経過(アメダス石巻)

表1 生育調査ほの調査結果(6月10日現在)

品種	調査ほ場	移植日 (月/日)	草丈(cm)		茎数(本/㎡)		葉数(枚)		葉色(SPAD値)					
			前年比 (%)	平年比 (%)	前年比 (%)	平年比 (%)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	前年差	平年差				
ひとめぼれ	石巻市広瀬	5/4	28.9	99	99	375	139	145	8.1	-0.1	0.6	42.7	1.0	2.0
	東松島市小松	5/6	29.6	91	102	459	137	156	8.5	0.1	1.0	46.6	3.5	4.8
	平均	5/5	29.3	95	100	417	138	151	8.3	0.0	0.8	44.7	2.3	3.4
ササニシキ	石巻市桃生町寺崎	5/10	31.5	107	113	405	152	191	7.1	-0.4	0.3	36.5	-2.7	0.0
	石巻市井内	5/10	27.3	103	101	272	114	163	7.3	-0.6	0.3	36.3	-1.8	-1.1
	平均	5/10	29.4	105	107	339	134	177	7.2	-0.5	0.3	36.4	-2.3	-0.6

※平年値は過去5か年平均。葉数の前年差及び平年差の「+」は遅い「-」は早い、葉色の「+」は濃い「-」は淡いを表す。

### 〔ひとめぼれの生育経過〕

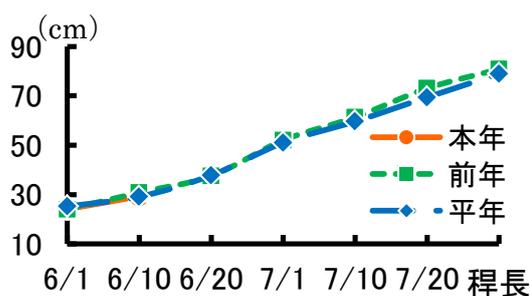


図2 草丈

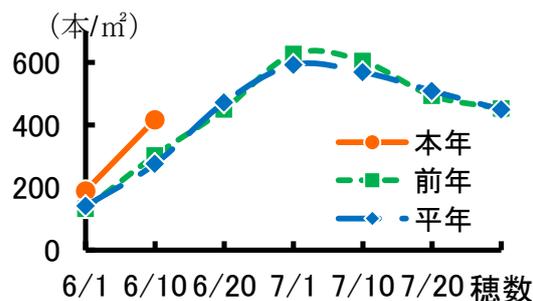


図3 茎数

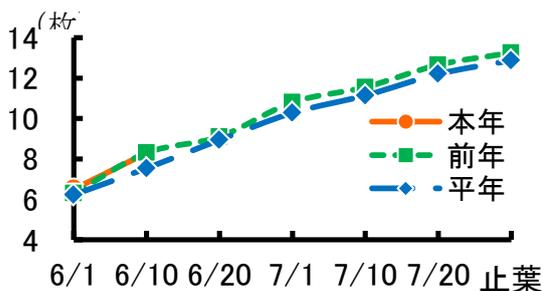


図4 葉数

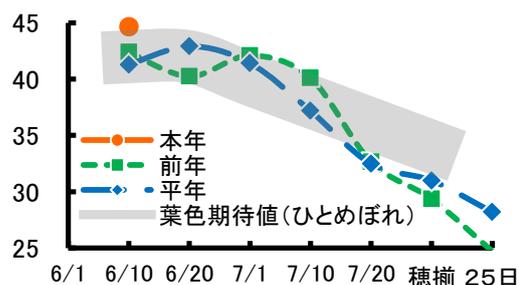


図5 葉色

## 乾田直播調査ほの生育状況(6月10日現在)

◎ 播種後の気温が高めに経過したため、順調に生育しています。

表2 乾田直播調査ほの生育状況(6月10日現在)

品種	調査ほ場	年度	播種日 (月日)	出芽揃日 (月日)	苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)
ひとめぼれ	石巻市河北	本年	4/10	5/19	129	21	166	6.3
ササニシキ	石巻市河南	本年	4/20	5/16	140	23	147	4.0
まなむすめ	石巻市桃生	本年	4/18	5/22	119	32	185	6.3
(参考) ひとめぼれ	石巻市桃生	前年	4/3	5/13	119	27	164	4.9
		平年	4/19	5/18	125	20	157	4.7

※(参考)ひとめぼれの平年値は生産者と品種が同じで、ほ場が異なる5カ年の平均値。



写真1 乾直ほ場(ひとめぼれ)



写真2 乾直ほ場(まなむすめ)

## だて正夢・金のいぶき展示ほの生育状況

- ◎ だて正夢は、ひとめぼれと比較して、草丈は長めです。分けつが発生しにくい特性がありますが、植付本数の違いから昨年に比べて茎数は多くなっています。葉数と葉色はほぼ同程度となっています。
- ◎ 金のいぶきは、ひとめぼれと比較して、植付本数の違いから6月10日現在の茎数は少なめとなっています。葉数は少なめ、葉色はやや淡くなっています。

表3 「だて正夢」及び「金のいぶき」普及展示ほの調査結果(6月10日現在)

調査ほ場	品種名	年次	移植日 (月日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
東松島市 小松	だて正夢	本年	5/5	38	451	7.8	43.5
		前年	5/10	33	101	5.7	41.8
石巻市 蛇田	金のいぶき	本年	5/11	31	251	7.3	39.6
東松島市 小松	(参考)本年生育調査ほ ひとめぼれ		5/6	30	459	8.5	46.6

## 今後の管理

～今年は生育が進んでいます。目標有効茎数を確保したら早めに中干しをしましょう～

### 1 水管理

- ◎ 中干しまでは間断かん水が基本ですが、移植が遅い場合や直播栽培など生育量が不足しているほ場では3cm程度の浅水とし、分げつの発生を促しましょう。
- ◎ 目標有効茎数を確保したら早めに中干しを実施しましょう（目標有効茎数は表4を参考にしてください）。中干しは7～10日間程度で、土の表面に軽くひび割れが入り、歩くと軽く足跡が残る程度が目安です。なお、実施に当たっては、各土地改良区の揚水停止期間を確認し、計画的に水管理を行いましょう。
- ◎ 復元田などで倒伏が心配される場合には、分げつ期における深水管理が有効です。分げつ期に深水とすることで茎数の増加を抑制することができます。ただし、深水管理によって表層はく離が発生しやすくなるので注意しましょう。なお、表層はく離対策としては、浅水管理や日中落水管理が有効です。
- ◎ 有機物を多用している水田などで、土壌からガスの発生が見られる場合には、中耕や一時的に落水するなどして土壌中に酸素を供給し、根の障害を防ぎましょう。

### 【今後の水管理のポイント】

- 復元田など過繁茂となりやすく、倒伏が心配されるほ場では、  
 一般ほ場より中干し開始の時期を早める。
- 大区画ほ場や排水不良田では、  
 溝切りを行い、排水を促す。
- 直播栽培など揚水停止まで必要茎数を確保できないほ場では、  
 揚水停止直前に湛水し、必要茎数を確保してから中干しする（湛水直播は強めに中干し）。
- 除塩ほ場では、  
 強い中干しは行わず、飽水管理（足跡の水がなくなったらごく浅めに入水）、又は4～5日程度の短めの中干しとし、田面を乾かし過ぎない。

表4 品種別の目標有効茎数

品種	目標有効茎数(穂数)					
	移植栽培			直播栽培		
	m <sup>2</sup> あたり(本/m <sup>2</sup> )	1株当たり(本/株)		m <sup>2</sup> あたり(本/m <sup>2</sup> )	条1m当たり(本/m)	
ササニシキ	480～510	50株/坪植え	32～34			
		60株/坪植え	26～28			
ひとめぼれ	410～460	50株/坪植え	27～30	460	条間30cm	138
		60株/坪植え	23～25		条間25cm	115
まなむすめ	390～440	50株/坪植え	26～29	370	条間30cm	111
		60株/坪植え	21～24		条間25cm	93

## 2 雑草対策

- ◎ 残草がある場合には、中・後期剤を利用してください(表5)。  
(※ JAいしのまき環境保全米では中・後期除草剤は使用できません。)
- ◎ 除草剤の選定の際には、雑草の種類や草丈、葉齢などを確認し、適切な剤を選定するとともに、使用の際は、容器のラベルに記載された使用時期、使用方法を守りましょう。

表5 主な中期除草剤(移植・直播共通)

除草剤名	主な適用雑草						使用方法
	ノビエ	一年生雑草 (イネ科を除く)	ホタルイ	クログワイ	シズイ	コウキヤガラ	
クリンチャーEW	○ 注1						湛水散布又は落水散布【移】 雑草茎葉散布【直】
クリンチャー1キロ粒剤	○						湛水散布又は無人ヘリ散布
クリンチャージャンボ	○						水田に小包装(パック)のまま投げ入れる
バサグラン液剤		○	○	○	○【移】	○【移】	落水散布又はごく浅く湛水して散布
バサグラン粒剤		○	○	○【移】	○【移】		落水散布又はごく浅く湛水して散布
クリンチャーバスME液剤	○ 注2	○ 注2	○	○【移】	○【移】	○【移】	落水散布又はごく浅く湛水して散布【移】 乾田・落水状態で雑草茎葉散布【直】

※ 登録内容は平成31年6月12日現在のものです。使用前に必ず最新の登録内容を確認して、適正に使用してください。

表中の【移】は移植栽培のみ、【直】は直播栽培のみの登録です。

注1 農薬登録は、移植水稲がノビエ、直播水稲が水田一年生イネ科雑草への適用となっています。

注2 農薬登録は、水田一年生雑草への適用となっています。

## 3 いもち病対策 ～ 移植では残苗処分、直播では予防防除を！～

- ◎ 残苗が置かれているほ場が散見されますので、直ちに処分しましょう。
- ◎ 例年、直播栽培で葉いもちが散見され、一部発生程度の高いほ場も見られます。直播栽培では、必ず6月中～下旬に葉いもち予防剤による防除を行いましょう。

## 4 斑点米カメムシ類対策

- ◎ 宮城県では、平成18年以降、全検査数量のうち2～4%が斑点米カメムシ類による着色粒が原因で落等しています。
- ◎ 畦畔や農道、雑草地、休耕田のイネ科雑草は、今後斑点米カメムシ類の重要な繁殖源となるので、今から計画的な草刈りを行い、カメムシ類の発生を抑制しましょう。
- ◎ ほ場の中にイヌホタルイが残っている場合は、斑点米による落等の確率が高まるので(表6)、7月上旬までに追加除草を行ってください。

表6 イヌホタルイ発生量に基づく斑点米被害リスク

6月下旬の株数/m <sup>2</sup>	2等以下に落等する確率
0～1	0～30%
1～6	30～40%
6～16	40～50%
16～28	50～60%
28～42	60～70%
42～61	70～80%
61～90	80～90%
90～112	90～94%
112～	94%～

調査方法: 水田内でイヌホタルイが密生している1か所を調査する。

条間1m内の株数を3.3倍して1m<sup>2</sup>あたりの株数を求める。

(宮城県病害虫防除所)

※殺虫剤散布を行わない場合の被害リスクは、上記の確率よりも高まる可能性があります。

## ～ 農薬危害防止運動実施中(6月1日～8月31日) ～

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限等を確認して、定められた方法を厳守してください。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターホームページ<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm001.html>で確認できます。